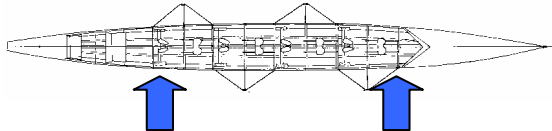


わかっていますか？ ナックル取扱い基本の基本チェックポイントx10！

※木造艇、プラスチック艇で多少異なることもありますが、使用方法は共通化して丁寧な優しい扱いになるように心がけましょう。

1 ウマを正しい位置に！

バウのバックストップと、整調のフォアステイ付け根(ストレッチャー付近)の2箇所(の骨組)に合わせよう。 広すぎても狭すぎてもよくありません。



2 ウマを平行に

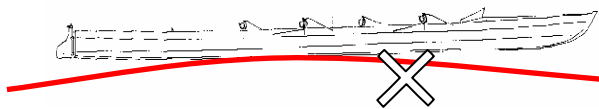
2つのウマが平行か必ずチェック！ 平行でないと、ねじれの負荷が大きくなる。

木の楔(くさび)なども利用しましょう。 ガンネルに平行に！



3 地面に置くときの注意点

平坦な地面や砂浜にはそのまま置けます。 ただし、船体を傷める突起物や、凸面や凹面で、不適切な接地状態でないか、よくチェックしよう。



4 ○踏んでも良いところ／×悪いところ

○： コックス席，コーチャーボックス，ビーム(梁)，(ストレッチャーバー)，(レール。ただし支えのある部分が望ましい。 ※砂・泥を乗せないこと



×： 船底は絶対踏まないで！

△： キール。 強度は問題ないが、底板も一緒に踏みやすく要注意。 踏まない習慣を推奨。

(補足： コックス席も同じ。 乗降時に底を踏みやすいので注意。 体重をかけてよいのは座席の上だけ。 立上がったの指導は推奨できないが、あえて立つときも、静止した状態でブレードでバランスをとり、「座面の上」に立つ。)

5 ラダーポストを大切に！

バックロウで、ラダーロープを緩めていると、ラダーが直角になりラダーポスト(軸柱)に過剰な負荷がかかる。 ラダーが横向きにならないようにラダーロープをしっかり保持しよう。

※コックスがラダーロープを支えにして立つの指導は不可。

6 デッキに腰掛けない

(特に空席の)艇のデッキに腰掛けてはダメ。 鯖折り状態の負荷が艇を疲労させる。



7 持ち上げ方

ナックルは、内面の持ち手やキールで持ち上げよう。 ※前後のデッキの裏に手をかけて持ち上げてはいけない。 老朽艇ではデッキをはがしてしまうことが多い。

8 ラダーロープの巻き方

ラダーロープは、ロープの固定箇所を外し、ロープをラダー側に引きあげてから、首に巻く。

※ラダー取付の迅速化のことからか、舵柄や縦に巻く文化(習慣)もある。 ただしロープが地面に敷かれる状態は、好ましくない。)



9 ドレン・プラグ

表向きで艇内を洗うとき、中に水をためないように、船底の水抜き栓(ドレン・プラグ)を開けておこう(締めるとき、ネジ山を砂などで傷めないように注意)。 栓がない(または開かない)場合は、中に水を溜めないように注意！ (ウマに載せた状態では4cm以内)

10 (おまけ) スタートロープの処理

発艇号令の直後、スタートロープは横に遠く投げよう。 ラダーロープに絡まると、ラダーの破損やコックス、添乗員の落水事故につながる。